こびとのくつや

貧しいけれど心の優しい靴屋の夫婦がいました。生活が苦しく、ついに靴一足分の皮しか残っていません。その皮を明日の朝に仕立てようと準備をし、夫婦は眠りにつきました。

翌朝、靴屋が仕事場へ行くと、そこには美しい靴ができていました。その靴を売ると、たちまち評判になり、お金持ちが次々と靴を買いに来たため、靴屋は大変繁盛しました。

不思議に思った靴屋が夜に隠れて様子を見ていると、二人の小人が現れ、あっという間に靴を作ってしまいます。小人たちに感謝した夫婦は、お礼に小さな服と靴を用意しました。

その夜、小人たちは服と靴を見つけると大喜びし、着替えて楽しそうに踊り出しました。そして二度と姿を現すことはありませんでしたが、靴屋はその後も繁盛し、幸せに暮らしました。